シンポジウム A

小児医療から見た子どもの育ち

座長：**榊原洋一**（お茶の水女子大学教授）

総括

シンポジウムＡでは、日本の新生児医療の第一線で活躍されている藤村正哲氏と金澤忠博氏のお二人から低出生体重児（未熟児）の発達についての極めて興味深いお話が伺えた。

かつては、命を救うことでさえ困難だった低出生体重児であるが、近年の新生児医療の技術と体制の進歩によって、救命率が大幅に改善したことはすでによく知られている。しかし、早期に出生し子宮外で生存することが子どものデリケートな脳の発達に私たちが予想しなかった影響を与えていたことが、長年にわたる根気のいる長期追跡調査で明らかになったのである。低出生体重児は、近年、学校教育現場での大きな課題の一つである、高機能自閉症や注意欠陥多動性障害などの発達障害を発症する率も極めて高いことがわかった。こうした新事実への対応についても、お二人から重要な示唆をいただけたと思っている。